

2024年11月16日
10:00～12:40

繊維学会 第712回 理事会議事録

1. 確認事項

出席理事 辻井敬亘、濱田仁美、村瀬浩貴、増田正人、中澤靖元、永田謙二、末信一朗、上高原浩、氏家誠司、武野明義、道信剛志、花田朋美、木村睦、櫻井伸一、巽大輔、高崎緑、大松沢明宏、神山統光、出口潤子、増森忠雄、小泉聡、香出健司、清水宏泰、森下美由紀、東城武彦、石澤仁志

監事 大田康雄、土田亮

欠席理事・監事 松葉豪、内田哲也、竹中幹人、山崎睦生、小原奈津子

(順不同、敬称略)

会場 ハイブリッド開催

(対面:京都テルサ 東館第8会議室、オンライン (zoom システム利用))

理事 30名のうち 26名、監事 2名の出席を確認し、定款 36条により本理事会は有効に成立した。本理事会は、ハイブリッドにて開催し、理事の意思表示は発言や挙手にて決議することとした。辻井会長を議長とし審議事項、報告事項へ移った。

2. 審議事項

1) 会員入退会について・・・<資料1>

11月8日(金)現在の会員数の詳細(正会員数996名(正会員927名、名誉会員17名、永年会員52名)、学生会員436名、維持会員11団体、賛助会員88団体)

・ISF2024、秋季研究発表会への参加に関連して、学生会員の増加が顕著である

・今回、再度正会員が1000名以下に減少

正会員の入会者はあるものの、退職による退会やご逝去による退会が多い

【審議結果】

入退会報告について、正会員4名増、学生会員11名増、維持、賛助会員は増減無しで異議なく承認された。併せて、理事各位へ会員増強についての協力が求められた。

2) 次年度事業計画、予算案作成依頼について(支部・研究委員会)

【本部からの活動資金支援について】

・次年度予算書(2024年12月初旬依頼予定)、本年度活動報告書、決算書の提出があった支部と研究委員会へのみ支援を行うものとする

・活動資金が100万円以上の支部、研究委員会への支援金はなし

・研究委員会には、規定に従い、2年毎に「継続願い」を提出いただく。

・2025年1月の理事会にて審議し、継続が承認された場合に活動支援を行うものとする

14研究委員会@50,000円、@25,000円 合計 625,000円を予定

【審議結果】

支部への支援金は、支部が保有する残高により、次年度計画と予算案の提出があった支部へのみ行うこととすることが承認された。また、運営委員長から該当の研究委員会委員長

宛に継続願い提出を指示することとし、次回理事会において、継続願いを審議した後、支援金を支給することが異議なく承認された。次年度予算作成は、上記支援額の決定後に作成し、理事会にて審議することとなった。

3) 企画委員会内規改訂について・・・<資料 2>

【審議結果】

若手交流委員会は「若手研究委員会」として既に独立で活動していることから、現状にそぐわないことから削除が求められた他、一部、日本語として適切な文言に修正する案が示され、異議なく承認された。

4) 学会運営の改善に向けた取り組み状況について・・・<資料 3>

・会長選挙の方針について

【審議結果】

前回理事会において、直接選挙はマニフェストによる候補者の運営方針の公開、それに対する会員の意思表明の機会となり、会員の学会運営への参画意識の醸成、議論の活性化に繋がると期待されるとの合意に至った。方針として、マニフェスト選挙による会員の意思表明に加えて、これにより選任された会長が次期学会運営を主導できるよう、もとより一定の検証手続き(次期体制検討委員会の設置やその後の理事会・総会承認など)を経つつ、被選任者主導による組閣(役員選任)とすることに対する提案について、意見をいただいた下記の箇所を修正し、その方針と選任方法の骨子について再度提案をおこない、異議なく承認された。

・会長候補者一次推薦 支部推薦(各支部 1 名以内;プロセス標準化:支部監事による支部推薦委員会での審議を経て支部長より推薦)

・被選挙会長候補者(3 名以内)の選出 一次推薦に加えて推薦委員会委員による推薦を可とする(一次推薦無しあるいは 1 名のみで選択肢がないことは不適正か)→内諾等の問題で検討が必要

・マニフェスト公開(HP および会誌に掲載) 一般会員からの質問:候補者の負担や各論となった場合のバイアス効果などを加味し、また、候補者の人物像がある程度見えていることを想定し、Q&A は実施せず、マニフェストで判断いただく方針。

・次期体制案(副会長・理事・監事、役割分担)の策定 ※企業理事を選ぶ際の運用については検討が必要

→候補者のマニフェストは同じになりがち。次の会長にしてほしいことを会員から募って、それに対してマニフェストで答えてもらう、または、時事的にどのように学会運営をしたいのかを聞く機会を設けてもよいのではないか。

→選挙管理委員会の立ち上げも必要。

→会長選挙の改革の意味は、民主的に会長が決まっていることを会員に示すことであり、乱立したとしても、その中から選んでいただくことが望ましい。

→投票率が上がるような(白票を減らせるような)土壌を作っておく必要がある。

→第一次候補者に全員に会員投票の機会を与える場合には、2 回投票をする(上位 2 名による決戦投票)ことも検討に加える。

・感覚と計測研究委員会に関する今後の対応について

【審議結果】

前回理事会でも修正会告の事後掲載は適切ではないとの指摘をうけ、修正会告の取り下げをおこない、改めてお詫びのみ掲載することとする。学会運営のガバナンスと透明性の向上にむけて、共催・協賛・後援規定の整備を行い、改めて理事会へ提案し審議いただくこととした。

3. 報告事項

1) 80周年記念事業 ISF2024 国際シンポジウム進捗状況について・・・<資料 4>

【発表・参加申込について】口頭発表 332 件 ポスター発表 159 件

・ Keynote Speaker 4 名

Prof. Savvas VASSILIADIS University of West Attica, Greece

Prof. Emeritus Han Yong JEON Inha University, Korea

Prof. Caroline L. SCHAUER Drexel University, USA

Prof. Emeritus Takeshi KIKUTANI Institute of Science Tokyo, Japan

・ Invited Speakers 28 名

・ 参加登録者数 400 名 (11 月 11 日時点) (展示関係者、講演者含む)

【プログラムについて】

・ プログラムはホームページにて公開済、ウェブ予稿集公開 11 月 18 日 (月)

【Welcome Party について】

・ 11 月 25 日 (月) 17 時～19 時 うどんダイニング凜 テルサ東館 1 階

【Banquet について】

・ Closing Ceremony 続けて、11 月 28 日 (木) テルサホール 西館 1 階で開催

【展示について】

・ 展示 20 社 (Special Session 3 から 3 件含む)

・ 企業展示期間 11 月 27 日 (水)、28 日 (木)

・ 11 月 26 日 (火) 夜 展示ブース設営、11 月 27 日 (水) 8 時より設営開始

2) 2024 年度秋季研究発表会の進捗状況について・・・<資料 5>

・ 口頭発表 (招待講演含む) 106 件 ポスター発表 76 件

・ 第 60 回染色化学討論会発表 3 件

・ 参加登録者数 249 名 (11 月 11 日時点、展示関係者、講演者含む)

・ 広告申込 26 件 1,770,000 円

・ 秋研・ISF 合同バンケット 11 月 28 日 (木) 18:30 より開催

【高校生セッション】

・ 理事会終了後、本日 ハイブリッドにて開催・・・<資料 6>

・ 口頭発表 12 件

3) 2024 年度収支見通しについて

・ 会費収入については予算通り推移

12 月～3 月の間には未回収分である≒150 万円を回収見込み

・ 本年度、事業収入の多くを占めている ISF2024 についても予算案通り順調に推移
約 2,200 万円の収入を予定

- ・ 秋季研究発表会についても順調に参加者増、当初予算に近い数字の予想
- ・ 1月の理事会では本年度見通しと、ISF2024, 秋季研究発表会の収支報告予定
- ・ 学会誌広告、JSFT への投稿料の回収、新規正会員、賛助会員獲得の努力継続

	予算	2024年10月末時点
会費収入	17,930,000円	16,440,000円 (△1,490,000円)
事業収入	42,100,000円	14,220,000円 (△27,880,000円)
合計	60,030,000円	30,660,000円

- ・ 管理費支出については、通信費の値上がりが顕著
- ・ 対面の会議開催に伴う等の費用の支出増
- ・ ペーパーレス化やDXの推進、通信費、印刷費用や消耗品費の節約が不可欠
- ・ 購読会員の減少も顕著
- ・ 1,700万円のISF支出を計上、事業費支出の予算比差額3,400万円はもう少し抑えられると予想
- ・ 管理費支出が予算比差額が残り130万円、事務局費について継続して見直し必須
- ・ 学会賞各賞表彰に関する費用として100万円弱の基金取崩を予定

	予算	2024年10月末時点
事業費支出	47,402,935円	13,323,000円
管理費支出	12,615,000円	11,291,000円
収支差	12,065円	6,046,000円

4) 繊維系三学会合併協議会（10月31日（木）開催）・・・<机上配布>

- ・ 最終答申と今後の予定について
- ・ 各WGからの最終答申報告
- ・ 会員説明会の開催時期を検討、合併に関する会員からの意見反映
- ・ 三学会の会員数の重複等、突合の実施について

【会長説明】第一次合併協議案を各会員と共有し、公聴会で意見交換を行う。第一次合併協議案と繊維学会の将来構想を単独で比較し、メリット・デメリットの議論を行う。第一次合併協議案の中では、課題（デメリット）についても盛り込まれており、今後開催予定の公聴会、支部・研究委員会メンバーとの意見交換、理事会、臨時理事会で引き続き議論を進める。前回からの改善点また、前回指摘があった懸念点についても纏め、全体像がわかり易いよう資料をまとめる。また、他学会の活動状況についても補足資料として共有する。第一次合併協議案はあくまで協議会からの提案をまとめたものであり、理事会承認案ではないこと、この案をもって合併してよいかを協議するのではないことが説明された。今後、改善案を作成した上で、あらためて提案し、単独運営か合併した方がいいのかの会員判断をいただく。現状と課題をもう一度見直し、ビジョン・ミッションを達成するためのロードマップなどさらなる改善が必要。長々議論するつもりはないが、十分な議論が出来ていない中で、時間がきたから議決権行使を行うような進め方はしない。

- ・ 本案は、前回否決された時の議論と変わっていないように見えるが、大丈夫か

→本案はあくまで協議会案として示し、公聴会での意見をもらうための叩き台。公聴会までに資料の初めに、繊維学会目線で前回とどう議論が違っているのかをまとめて、説明する予定

・会員へ迅速な情報公開を行い、会員に議論いただいた上で、理事会で改めて議論するのはよいと考える。

5) 企画委員会について

- ・第2回企画委員会 10月18日(金)ハイブリッド開催
- ・2024年度繊維応用講座準備について
～合成繊維のサステナビリティを考える～
2025年1月22日(水)オンライン開催
経産省製造産業局生活製品課からの講演含む5件で開催予定
- ・今後の高校生セッション運営に関する意見交換

6) 報告・連絡事項

① 東北・北海道支部(支部長 松葉理事)

- ・繊維学会北海道紙・パルプ技術懇談会(共催)

2024年12月13日(金)北海道大学農学部

「宇宙空間におけるセルロース合成」東京大学大学院 砂川直輝氏

「ナノセルロース材料の成形」大阪大学産業科学研究所 石岡瞬氏

「ホヤ殻由来CNFをベースとした電池用触媒の開発とエネルギーデバイスへの応用」東北大学材料科学高等研究所 藪浩氏

② 関東支部(支部長 中澤理事)

- ・2027年年次大会会場について

- ・2024年度関東支部講演会

～地球環境保全への挑戦と技術革新の最前線～(主催)・・・<資料7>

2024年12月6日(金) 東京農工大学新1号館グリーンホール

③ 東海支部(支部長 永田理事)

- ・第37回東海支部若手繊維研究会(共催)

2024年12月6日(金) ウィンクあいち

- ・色材アドバンスセミナー2024(協賛)

～種々の環境課題に対応する塗料原料の進展～

2024年12月12日(木) 名古屋市工業研究所 管理棟3階 第一会議室

④ 北陸支部(支部長 末理事)

- ・繊維学会北陸支部・日本繊維機械学会北陸支部 研究発表会(共催)

2024年度研究発表会 12月3日(火) 開催

金沢大学 バイオマスグリーンイノベーションセンター ステップホール

- ・繊維学会北陸支部・福井大学繊維マテリアル研究センター(共催)

2025年3月 北陸支部先端技術研究会 開催予定 講師2名を予定

⑤ 関西支部(支部長 上高原理事)

- ・第45回関西繊維セミナー、京都伝統産業ミュージアム見学会

2024年12月13日(金)

「京都の伝統産業について」 京都伝統産業ミュージアム館長 八田誠治 氏
・関西繊維科学賞、奨励賞の公募中・・・<資料8>

⑥ 西部支部（支部長 氏家理事）

- ・第39回繊維学会西部支部講演会・見学会報告
2024年11月8日(金) 九州大学にて実施
- ・2024年度セルロース学会西部支部・繊維学会西部支部合同セミナー（主催）
2025年1月10日（金）九州工業大学

「バイオベース材料複合系の様々な形態における機能と評価」

京都大学大学院 寺本好邦 氏

「生物ナノ繊維材料の機能設計とエレクトロニクス・医療応用展開」

大阪大学産業科学研究所 古賀大尚 氏

「脱炭素社会の実現に向けたパルププラスチック複合材の開発」

愛媛大学 瀧岡陽 氏

「ピッチ系炭素繊維開発と工業化」A&C たかくら株式会社 高倉剛 氏

⑦ 研究委員会関係について

- ・繊維基礎科学研究委員会 秋季研究発表会にて特別セッションを実施
- ・染色研究委員会 秋季研究発表会同時開催で「第60回染色化学討論会」を実施
- ・若手研究委員会 秋季研究発表会で特別セッションを実施（招待講演のみ10件）

⑧ ATC-17開催について

- ・会場：Feng Chia University, 台湾・台中（<https://www.atc17.tw/>）
- ・会期：2024年12月17日（火）-19日（木）（FAPTA会議12月18日（水））
- ・参加登録費 発表者：Regular 300 USD（オンサイト500 USD）Student 120 USD（オンサイト200 USD）、参加・聴講のみ：Regular 300 USD, Student 200 USD
- ・繊維学会にてツアーを実施予定
- ・FAPTA日本を代表してKeynote Speakerとして岡山大学 内田哲也理事が講演

7) 各委員会からの報告等について

① 運営委員会

- ・2024年度繊維学会各賞 応募者募集の依頼・・・<資料9>
- ・支部長・研究委員長会議
2024年10月16日（水）オンライン開催
研究委員会継続願い提出の依頼、共催・協賛・後援規定の件、
学会賞各賞推薦の件などが議題として準備された。
次回理事会において、継続願いに関する審議を行う。

② 企画委員会

③ 国際連携委員会

- ・ISF2024国際シンポジウム Special Session 準備状況
- ・11月27日（水）ISF2024 Plenary Lecture と Special Session3 講師 Official Dinner

④ 将来構想委員会

- ・2024年11月18日（月）オンラインにて開催予定

⑤ 支部・研究委員会共催、協賛規定等の整備

8) 編集委員会の報告

① 繊維学会誌

2025年3月以降についても企画準備中

② 論文誌 JFST

JFST ISF2024 特集号を計画中

ATC-16 と同様に投稿料の 1/2 を小島基金より支援する形を予定

9) その他案件

① 会長・副会長との座談会開催について

・各支部、企業理事関係者、研究委員長、若手メンバー（若手研究委員会）との座談会をハイブリッド形式にて開催予定

・下記日程にて開催予定。支部関係者へのご案内と会議室準備を依頼

・12月4日（水）関西支部

・12月5日（木）北陸支部

・12月12日（木）西部支部

・12月21日（土）東北・北海道支部

・12月23日（月）関東支部

（要相談） 東海支部

② 4学会 会長座談会開催について・・・<再配布禁止_資料 10>

③ 会員名簿システムについて

東京コンピューターシステム（TCS）と事務局にてデータ移行と新システム運営に関する打合わせを実施、2024年1月中に契約が完了した場合のスケジュールが示された

・データ確認・移行プログラム作成 2ヶ月

・テスト環境の用意と検証 3週間

・修正対応 3週間、最終確認 2週間

・本番稼働作業 3営業日（合計4ヶ月強での本番稼働が可能）

④ 学会誌広告掲載計画と協力要請の依頼について・・・<資料 11>

辻井会長、事務局より協力依頼

⑤ 今後の理事会日程について

2025年1月25日（土）ハイブリッド開催（会場検討中）

2025年2月臨時理事会

2025年3月22日（土）オンライン開催

【学会賞選考委員会】

2025年2月15日（土）オンライン開催（東京）

【監査委員会】

2025年4月26日（土）対面開催（東京）

⑥ Pacifichem 2025 について

The 2025 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, December 15-20, 2025（環太平洋国際化学会議） in Honolulu, Hawaii 参加者募集のお知らせ

⑦ 今後の学会行事担当について

*2027年6月年次大会 別会場手配について検討する必要あり

	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年
年次大会	関東支部	関東支部	関東支部	関東支部	関東支部
夏季セミナー	西部支部	北陸支部	東海支部	東北・北海道支部	西部支部
秋季研究発表会	東北・北海道支部	関西支部	関西支部	関西支部	関西支部

4. 監事コメント

【大田監事】非常に活発な議論がなされたと理解している。学会運営の改善に関して、会長からメッセージを発信されるとのこと、研究委員会、会長選挙、合併問題など大きな課題が山積している中ではあるが、会員ファースト、会員の視点で着実に進めてほしい。活発に議論が行われていても、思っている以上に、会員へ理事会での内容を伝えることは困難であることから、ぜひ、引き続き、会員各位との情報共有、質の高いコミュニケーションをお願いしたい。ISF2024についても、ぜひ理事会が一致団結し、開催に向けて歩を進めてほしい。

【土田監事】会員数が1,000名を切ったことは残念である。またぜひ、近いうちに1,000名を超えるよう、協力をいただきたい。ISF2024と秋季研究発表会へ協力いただいている委員各位に感謝申し上げるとともに、引き続き開催まで尽力いただきたくお願いしたい。未来の科学技術を支える高校生を迎え、繊維学会主催で本日「高校生セッション」を開催できることを嬉しく思っている。ぜひ理事にも審査に協力いただき、活発な質疑応答ができるとよい。

【小原監事】ご欠席

【第712回理事会 議事録署名人捺印】

議長: _____ 印

監事: _____ 印

監事: _____ 印

監事: _____ 印